釧路湿原川レンジャー News

2015　Vol.2

第1回「釧路湿原川レンジャー学習会」が開催されました

平成２７年６月２２日(月)に２８名が参加して、今年度最初の「第１回釧路湿原川レンジャー学習会」を開催しました。

今回は、釧路町岩保木水門付近での「花咲かじいさんプロジェクト」と標茶町塘路での「オオハンゴンソウ防除セミナー」に参加しました。

位置図

「花咲かじいさんプロジェクト」について

花咲かじいさんプロジェクト」※1は、平成８年から岩保木水門周辺で、釧路開発建設部が釧路町立遠矢小学校と協働で実施している植樹活動で、今年で２０周年を迎えました。平成１４年からは釧路湿原川レンジャーも参加しており、このプロジェクトで植樹した苗木は、５，７００ポットを越えました。

※1「花咲かじいさんプロジェクト」の説明は、別紙の「花咲かじいさんプロジェクト」に掲載されています。また、下記URLにも掲載しておりますので、そちらも併せてご覧下さい。
http://www.ks.hkd.mlit.go.jp/kasen/nframes/12.html

●樹木の生育観察

生育観察は、２０年前の平成８年に初めて遠矢小学校の児童が植樹した箇所で行いました。植樹時に１０cm程度だったハンノキやケヤマハンノキの樹高が８ｍを越えており、順調に生育していることがわかりました。

樹木の生育状況を確認

●湿原観察

湿原観察は、現地で生息している「ヤチボウズ」の説明を聞いた後、事前に国立公園外の河川区域で採取したヤチボウズを切断し、断面に触れて行いました。実際に触れて観察した参加者は、ヤチボウズのフワフワした感触に驚いていました。

ヤチボウズの断面を観察

●川の学習

川の学習では「川で楽しく安全に遊ぶため」の注意事項として、川で遊ぶときの服装や川の危険箇所、川に流されたときの行動など、水難事故防止について解説していただきました。小学生だけではなく、大人も気をつけるべき点が多い内容でした。

水難事故防止のチラシ

川の学習の様子

●植樹作業

植樹したポット苗は、昨年の学習会で参加者が移植し、石岡氏が１年間育てたアオダモやハルニレ・ヤチダモ・ハシドイなど２８種類で、釧路川流域や釧路湿原の自然林の種子から育てたものを使用しました。作業は、１サークルにポット苗を１０ポット、計１５サークルに１５０ポット植樹しました。なお、植樹後に行った樹木記録（植えた位置と樹高）調査は、今後の生育調査の基礎資料になります。

石岡氏が育てたアオダモ

植樹の様子

植樹した苗と記念撮影

花咲かじいさんP参加者全員での記念撮影

「オオハンゴンソウ防除セミナー」

午後からは塘路湖に移動し、環境省主催の「オオハンゴンソウ防除セミナー」に参加しました。

最初に塘路湖エコミュージアムセンターで、ＮＰＯ法人環境把握推進ネットワークーＰＥＧー代表の照井滋晴氏による講義が行われました。

照井氏は『釧路湿原の景観を取り戻し維持することが一番大切で、オオハンゴンソウは長いスパンで根気よく駆除しなければ、根絶が難しいです。また、長い期間がかかるので、自分たちの気持ちを維持することも外来生物の駆除という点では重要だと思います。』と、言っていました。

なお、説明していただいた主な内容は、右表にまとめました。

照井氏

ﾔｴｻﾞｷ
ｵｵﾊﾝｺﾞﾝｿｳの花

駆除の様子

駆除したﾔｴｻﾞｷｵｵﾊﾝｺﾞﾝｿｳ

菊地氏提供
8月の様子（取り残しが繁茂）

※2生態系被害防止外来種：環境省及び農林水産省では、幅広く生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種を選定し、リストを作成した。

オオハンゴンソウ防除セミナーの主な内容

●オオハンゴンソウとは

・特定外来生物で、サルボ展望台付近では、今回駆除する同種のヤエザキオオハンゴンソウ（特定外来生物）も生息している。
・葉は、5～7枚に深く裂けており、ヨモギと良く似ているが、ヨモギは葉の裏に毛があり灰白色で、ヨモギ独特の香りがする。

●なぜ防除するのか？

・1990年代に釧路湿原国立公園への侵入が知られ、近年の調査で、広範囲の生息を確認（普段、人が入れない特別保護区にも大群落での生息を確認）
・広範囲に生息しているため、釧路湿原の景観を損ねる事が一番の問題で、希少な在来種の生態系への影響も懸念されている。

●防除方法について

・2010～2012年に表－１の方法で実験した結果、防除には「根元から切る」か「根ごと掘り出す」が効果的。ただし、根が残ると（数㎜でも）再生するので、根の除去を目指したい。

表－１　オオハンゴンソウ防除方法の実験（４区画（1m×1m）で実験）

区画	方法	3年後の結果	
1	何もしない（駆除しない）	70%→90%	増加
2	花の時期に花だけ取る（葉・茎・根を残す）	70%→90%	花だけでは効果なし
3	根元から切る（葉・茎・花を取り、根を残す）	90%→20%	効果あり
4	根ごと掘り出す（葉・茎・花・根を取る）	80%→10%	非常に効果あり（ヨシなどが増加）

・3～4年間駆除しても根絶はしないが、確実に減っており、効果がある。

●釧路湿原域に侵入したオオハンゴンソウの今後についての検討会について

昨年、調査結果などを踏まえ、今後の釧路湿原のオオハンゴンソウについて専門家による検討会を開催。様々な意見をまとめると下記のようになる。

・目標：釧路湿原らしい景観の維持
・防除優先箇所：①展望台・遊歩道、観光客などの利用頻度が高いなど、景観上重要な場所を優先。②侵入初期の小群落も駆除しやすいので、優先する。
・時期：①在来の植生に影響を与えない時期。②抜きやすい時期。
5月～6月頃か10月頃が効果的だが、花が無く間違えやすい。種子が実った時期には、服などに付着して散布する可能性があるので、その前に行う。
・特定外来生物のオオハンゴンソウを駆除するには、長い年月がかかるので、１０年間で計画している（表－２）。

表－２　オオハンゴンソウ防除計画

	1～3年目（年3回）多人数での駆除	4～6年目（年3回程度）根絶には至ってないが、少人数で駆除可能	7～10年目（年2回程度）
内容	・抜きやすい6～7月に駆除 ・9月に駆除が間に合わなかった部分の種子を回収 ・10月頃（在来種に影響の無い時期）に抜き取り駆除	・5月、10月（在来種に影響の無い時期）に抜き取り駆除 ・6月頃、伸びてきたものを抜く	・年に2回程、抜き取り駆除
考察	3年間繰り返すことにより、かなり小さくなるであろう	この3年間で、数えるほどになるであろう	根絶するであろう

●防除の注意事項

・オオハンゴンソウを根から除去しても、翌年に発芽することがある。これは土中の種子が環境条件が整うと発芽するので、除去後も注意が必要。
・小型の個体は茎が柔らかく、抜き取ろうとすると切れてしまうので、道具などを使用して根から抜き取る。
・大きな群落の場合、１日では全てを抜き取れない。余力があったり、体力的に抜き取れない場合は、今後の作業を楽にするため、折ったり刈ったりしておく。また、バラバラに行わず、範囲を決めて集中的に駆除する。
・作業中は、一般の方への啓発も兼ねて、「外来生物防除作業中」のゼッケンを着用する。

●釧路湿原に生息する、注意すべき外来植物

・釧路湿原には、※2「生態系被害防止外来種」に指定され、湿地に強い「オオアワダチソウ」が侵入している。同属の「セイタカアワダチソウ」は、他の植物が生息しにくい物質を出すと言われており、オオアワダチソウにも同様の効果があると思われる。実際、群落の中にオオアワダチソウが生息している場合、周囲にはオオハンゴンソウがあまり生息していないことがある。

国土交通省
あしたを創る　北の知恵
北海道開発局
釧路開発建設部治水課
〒085-8551 釧路市幸町10丁目３番地
釧路湿原川レンジャー事務局
０１２０－８９４６－４２（やっぱりくしろしつげん）
http//www.ks.hkd.mlit.go.jp/
「釧路開発建設部」で検索してください！